

第2回 北区リレーションシップ協議会 次第

日時：平成29年6月28日（水）

午後7時～

場所：北とぴあ 第二研修室

1 開会

2 座長、副座長あいさつ

3 構成員紹介

4 議題

(1) 北区リレーションシップ協議会設置要綱の一部改正

(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた北区の取組方針の説明

(3) 協議事項

① 北区スポーツ大使の任命及びスポーツコンダクターの活動について

② スポーツボランティア制度の活用について

③ 事前キャンプ誘致に向けた取組みについて

④ 東京2020大会開催の1,000日前を記念したイベントの開催について

⑤ 平昌2018冬季オリンピック・パラリンピック応援事業について

(4) その他

5 今後のスケジュール

6 閉会

配付資料一覧

- 資料1 北区リレーションシップ協議会構成員名簿

- 資料2 会議席次表

- 資料3 北区リレーションシップ協議会設置要綱

- 資料4-1 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた北区の取組方針

- 資料4-2 (別紙) 東京 2020 大会開催に向けた取組み

- 資料5 区内企業とのパートナーシップ協定の締結について

- 資料6 北区スポーツボランティアガイドブック

- 資料7 東京 2020 大会 1000 日前記念イベントの開催について

- 資料8 東京 2020 応援プログラム概要

- 資料9 東京 2020 大会マスコットについて

- 資料10 今後のスケジュール(予定)

北区リレーションシップ協議会構成員名簿

資料1

区分	No.	団体・機関等	名前(敬称略)
学識経験者	1	東洋大学 ライフデザイン学部 健康スポーツ学科	齊藤 恭平
スポーツ	2	北区スポーツ大使	石野 枝里子
	3	北区スポーツ大使	高橋 勇市
	4	日本スポーツ振興センター 西が丘管理部	岸 千秋
	5	東京都障害者総合スポーツセンター	高山 浩久
	6	東京都北区体育協会	根本 貞義
	7	北区総合型地域スポーツクラブ れっど★しゃっふる	吉村 実花子
	8	北区スポーツ推進委員協議会	二村 正徳
	地域・産業	9	北区町会自治会連合会
10		北区商店街連合会	尾花 秀雄
11		東京商工会議所北支部	越野 充博
文化・観光	12	東京北区観光協会	大前 孝太郎
	13	北区文化振興財団	気賀沢 進
教育	14	北区立小学校体育会	淵脇 泰夫
	15	北区立中学校体育会	高田 勝喜
	16	北区立小学校PTA連合会	兼松 リカ
	17	北区立中学校PTA連合会	西村 美奈子
	18	北区青少年地区委員会会長会	加藤 和宣
	19	北区青少年委員会	清水 恒明
行政	20	北区政策経営部	部長 中嶋 稔
	21	北区地域振興部	部長 浅川 謙治
	22	北区教育振興部	部長 田草川 昭夫

【事務局】

東京オリンピック・パラリンピック担当課

北区リレーションシップ協議会設置要綱

28 北地ス第 7545 号 平成 28 年 11 月 17 日区長決裁
改正 29 北地ス第 7016 号 平成 29 年 4 月 17 日区長決裁

(設置)

第 1 条 地域の魅力発信と活性化の機会となる東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）に向けて、関係団体・機関、地域及び北区が一体となり、オール北区で東京 2020 大会の気運醸成等に取り組んでいくため、北区リレーションシップ協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議事項)

第 2 条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 東京 2020 大会に関連する関係者間の情報共有及び連絡調整に関すること。
- (2) 東京 2020 大会の気運醸成に関すること。
- (3) 東京 2020 大会の開催を契機とした地域での取組に関すること。
- (4) 「トップアスリートのまち・北区」の推進に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、次条第 2 項の座長が認める事項

(構成)

第 3 条 協議会は、別表第 1 に掲げる者及び別表第 2 に掲げる団体・機関等から推薦された者を委員として構成する。

- 2 協議会に座長及び副座長を置き、委員の互選により選出する。
- 3 座長は、協議会を代表し、会務を総括する。
- 4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。
- 5 第 1 項に規定する者のほか、座長が協議会の運営に必要と認める者は、委員とすることができる。

(任期)

第 4 条 委員の任期は、協議会設置の日から平成 33 年 3 月 31 日までとする。ただし、団体・機関における役職変更、人事異動、退任等の事情があるときは、この限りでない。この場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第 5 条 協議会は、年 2 回開催する。ただし、座長が必要と認めるときは、随時協議会を開催することができる。

- 2 協議会は、座長が招集する。
- 3 協議会は、公開して行う。ただし、座長が適当ではないと認めるときは、この限りでない。
- 4 協議会の公開に関して必要な事項は、座長が別に定める。
- 5 座長は、必要があると認めるときは、協議会に委員以外の者を出席させることができる。

(検討部会)

第6条 座長は、協議会の下に検討部会を置くことができる。

2 検討部会は、委員が推薦する者のうちから区長が選任する者で構成する。

3 検討部会に部会長及び副部会長を置き、部会員の互選により選出する。

4 検討部会は、随時開催し、部会長が招集する。

5 検討部会は、非公開とし、検討部会において検討した事項を協議会に報告するものとする。

6 部会長は、必要があると認めるときは、検討部会に部会員以外の者を出席させることができる。

(事務局)

第7条 協議会及び検討部会の庶務は、北区地域振興部東京オリンピック・パラリンピック担当課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、座長が定める。

付 則

1 この要綱は、平成28年11月17日から施行する。

2 この要綱は、平成33年3月31日限り、その効力を失う。

付 則 (平成29年4月17日 29北地ス第7016号)

この要綱は、平成29年4月1日から適用する。

別表第1(第3条関係)

区分	No.	団体等
学識経験者	1	学校法人 東洋大学 ライフデザイン学部健康スポーツ学科 教授
スポーツ	2	北区スポーツ大使
	3	北区スポーツ大使
行政	4	北区政策経営部長
	5	北区地域振興部長
	6	北区教育委員会事務局教育振興部長

別表第2(第3条関係)

区分	No.	団体・機関等
スポーツ	1	独立行政法人 日本スポーツ振興センター 西が丘管理部
	2	東京都障害者総合スポーツセンター
	3	公益財団法人 東京都北区体育協会
	4	特定非営利活動法人 れっど★しゃっふる(地域総合型スポーツクラブ)
	5	北区スポーツ推進委員協議会
地域・産業	6	北区町会自治会連合会
	7	北区商店街連合会
	8	東京商工会議所北支部
文化・観光	9	一般社団法人 東京北区観光協会
	10	公益財団法人 北区文化振興財団
教育	11	北区立小学校体育会
	12	北区立中学校体育会
	13	北区立小学校 PTA 連合会
	14	北区立中学校 PTA 連合会
	15	北区青少年地区委員会会長会
	16	北区青少年委員会

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 に向けた北区の取組方針

2017 年（平成 29 年）6 月



1 はじめに

2020年、世界最大のスポーツと平和の祭典「オリンピック・パラリンピック競技大会」が東京で開催されます。

開催都市の一員である北区は、この東京2020大会を区民のスポーツ・健康の増進に寄与し、次世代に向けた夢とレガシーを創出する絶好の機会と捉えています。

スポーツを通じた心身の向上や世界平和の実現という「オリンピック精神」に基づく取組みはもちろんのこと、東京2020大会に関連するさまざまな事業を推進し、区民がスポーツの役割の重要性や平和の尊さを実感するとともに「おもてなしの心」で迎えられよう気運を高めてまいります。

そこで北区では、平成25年11月にオリンピック・パラリンピックの専管組織として東京オリンピック・パラリンピック担当課を設置し、東京2020大会を見据えた取組みをスタートしました。

また、東京2020大会に関連した事業を総合的に推進するため、庁内を横断する検討体制として「東京オリンピック・パラリンピック推進本部」を平成27年6月に設置しました。

全庁一丸となって大会を成功に導くとともに、大会開催が生み出す活気を地域社会の更なる発展に繋げてまいります。

【大会基本情報】



《オリンピック競技大会開催概要》

正式名称：第32回オリンピック競技大会（2020／東京）

開催期間：2020年（平成32年）7月24日（金）～8月9日（日）

競技数：33競技



《パラリンピック競技大会開催概要》

正式名称：東京2020パラリンピック競技大会

開催期間：2020年（平成32年）8月25日（火）～9月6日（日）

競技数：22競技

※本書における大会名称は、次の略称を使用しています。

「東京2020^{にいぜろにいぜろ}オリンピック・パラリンピック競技大会」または「東京2020^{にいぜろにいぜろ}大会」

2 方針の位置づけ

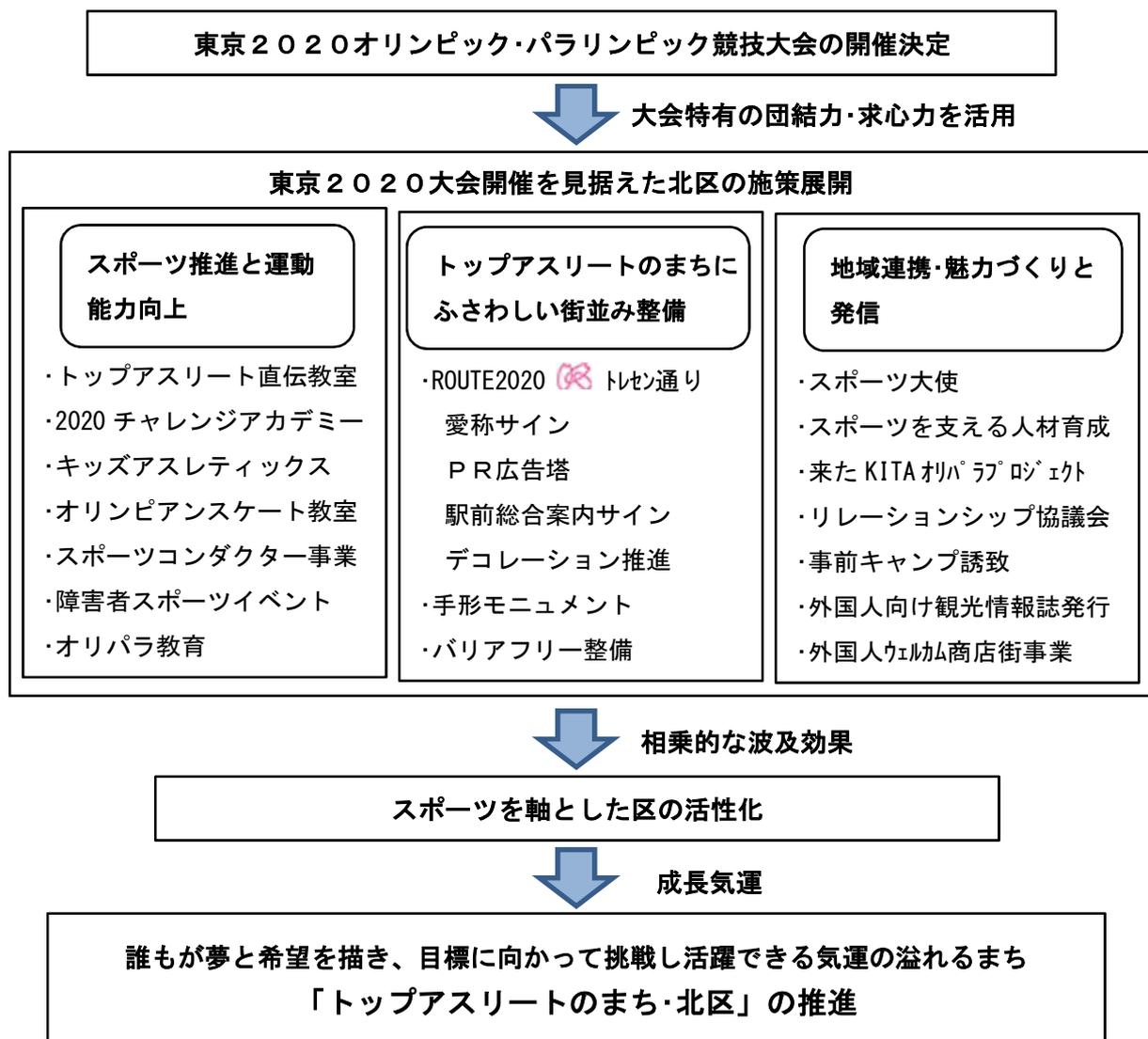
「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた北区の取組方針」は、「北区基本計画」に示す東京2020大会に向けた取組みの基本的な考え方や大会関連事業を踏まえ、大会開催を契機に北区の魅力のさらなる向上を図るための取組みの方向性を示すものです。

また、取組方針は、「北区スポーツ推進計画」等の関連計画との連携・調和を図りながら、区が一丸となって東京2020大会を成功させるためのものとして位置づけます。

3 基本的な考え方

- 東京2020大会開催を、単なる一過性のスポーツイベントに留まらせるのではなく、オリンピック・パラリンピックが放つ特有の団結力・求心力を活用した施策展開を図り、スポーツを軸とした区の活性化につなげる。
- 区内にある日本トップレベル競技者のための国内最高水準のトレーニング拠点である味の素ナショナルトレーニングセンターや国立スポーツ科学センター、23区唯一の障害者スポーツの拠点である東京都障害者総合スポーツセンターと連携した北区ならではの事業展開を図り、「トップアスリートのまち・北区」を推進していく。
- 東京2020大会を見据えた北区の特色ある取組みについて、シティプロモーションに重点を置いた事業展開を進め、北区の魅力や新たな価値として発信していく。

4 施策体系



【計画事業】 ※北区中期計画 平成 29 年度～31 年度（平成 29 年 3 月発行）抜粋

東京オリンピック・パラリンピックを見据えた北区の取組み

○地域産業の活性化

【025】 北区観光力向上プロジェクト

区民、事業者と一体となって北区の観光資源や魅力を発信するため、平成 29 年 1 月に設立された東京北区観光協会と連携して、ガイドマップの作成や SNS での情報発信等を行う。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、外国人に北区の魅力を発信し、来訪を促進するため、観光情報誌の発行等を行う。

全体計画 (36 年度) 目標 A	28 年度末 見込み B	必要量 A-B=C	年度別計画			計 (29～31) D	達成率 $\frac{B+D}{A}$
			29 年度	30 年度	31 年度		
推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進	—
(内訳) 観光協会 設立・連携	設立	連携	連携	連携	連携	連携	—
鉄道の まち事業	推進	推進	推進	推進	推進	推進	—
観光大使 の任命	推進	推進	推進	推進	推進	推進	—
外国人向け 観光情報誌 の発行	推進	推進	推進	推進	推進	推進	—
		事業費 (百万円)	27	27	27	81	

【030】 外国人ウェルカム商店街事業

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、商店街が外国人観光客に対応するため、無料公衆無線 LAN の整備、コミュニケーション補助ツール及びホームページ作成を支援する。

全体計画 (36 年度) 目標 A	28 年度末 見込み B	必要量 A-B=C	年度別計画			計 (29～31) D	達成率 $\frac{B+D}{A}$
			29 年度	30 年度	31 年度		
推進	開始	推進	拡充	推進	推進	推進	—
		事業費 (百万円)	4	10	10	24	

○生涯学習の推進

【035】来た KITA オリパラプロジェクト

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、世界各国の歴史、文化、食、言語等を学ぶことで「おもてなし」の心を持ったボランティアの育成事業を実施する。

全体計画 (36年度) 目標 A	28年度末 見込み B	必要量 A-B=C	年度別計画			計 (29~31) D	達成率 $\frac{B+D}{A}$
			29年度	30年度	31年度		
終了	推進	推進	拡充	拡充	拡充	推進	—
		事業費 (百万円)	5	5	5	15	

○生涯スポーツの推進

【037】東京オリンピック・パラリンピックに向けたバリアフリー整備

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、障害者や高齢者がスポーツに参加しやすい環境を整備するため、区内スポーツ施設及び施設へのアクセスルートのバリアフリー整備を推進する。

全体計画 (36年度) 目標 A	28年度末 見込み B	必要量 A-B=C	年度別計画			計 (29~31) D	達成率 $\frac{B+D}{A}$
			29年度	30年度	31年度		
完成	推進	完成	推進	推進	完成	完成	100%
(内訳) バリアフ リー整備 8カ所	4カ所	4カ所	2カ所	2カ所		4カ所	100%
ことなび 導入 12カ所	6カ所	6カ所	2カ所	2カ所	2カ所	6カ所	100%
		事業費 (百万円)	30	15	1	46	

※バリアフリー整備 予定施設

- 平成29年度 ・北運動場施設内、北本通りから施設までの点字ブロック敷設
 ・赤羽スポーツの森公園競技場施設内
- 平成30年度 ・浮間子どもスポーツ広場施設内、浮間舟渡駅から施設までの点字ブロック敷設
 ・浮間舟渡庭球場施設内

【038】「トップアスリートのまち・北区」PRプロジェクト

ROUTE2020(※)トレセン通りのデコレーション、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における事前キャンプ誘致、区内の連携を強化して取り組むためリレーションシップ協議会の設置、北区ゆかりのアスリートをPRの旗手として任命するなど「トップアスリートのまち・北区」を区内外に広く発信していくため、シティプロモーションに重点を置いた事業を展開する。

全体計画 (36年度) 目標 A	28年度末 見込み B	必要量 A-B=C	年度別計画			計 (29~31) D	達成率 $\frac{B+D}{A}$
			29年度	30年度	31年度		
推進	推進	推進	推進	拡充	拡充	推進	—
(内訳) ROUTE2020 デコレーション の整備	検討	推進	推進	推進	推進	推進	—
事前キャ ンプ誘致	推進	推進	推進	拡充	拡充	推進	—
リレーシ ョンシッ プ協議会	設置	推進	推進	推進	推進	推進	—
トップア スリート 直伝教室	推進	推進	推進	推進	推進	推進	—
スポーツ 大使	任命	推進	推進	推進	推進	推進	—
		事業費 (百万円)	5	17	17	39	

【040】障害者スポーツ交流イベント

東京都障害者総合スポーツセンター及びスポーツ団体などと連携して、障害の有無にかかわらず子どもから高齢者まで、だれでも楽しめるスポーツイベントを開催する。また、イベントを通じて区民の障害者スポーツへの理解・関心を深めるとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に繋げていく。

全体計画 (36年度) 目標 A	28年度末 見込み B	必要量 A-B=C	年度別計画			計 (29~31) D	達成率 $\frac{B+D}{A}$
			29年度	30年度	31年度		
推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進	—
		事業費 (百万円)	5	5	5	15	

【041】 2020チャレンジアカデミー

高い指導力を持ったコーチ陣の指導により、北区から東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のフェンシング日本代表選手輩出をめざす。

全体計画 (36年度) 目標 A	28年度末 見込み B	必要量 A-B=C	年度別計画			計 (29~31) D	達成率 $\frac{B+D}{A}$
			29年度	30年度	31年度		
推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進	—
		事業費 (百万円)	4	4	4	11	

【042】 スポーツを支える人材育成事業

障害者スポーツ指導の基礎的知識・技術を習得した人材を育成するため、北区主催の養成講習会を開催し、地域での障害者スポーツの普及と発展をめざす。

また、スポーツボランティア制度を創設し、スポーツ現場のボランティア確保・育成に取り組み、スポーツを通じた市民活動・社会貢献活動の活性化を図る。

全体計画 (36年度) 目標 A	28年度末 見込み B	必要量 A-B=C	年度別計画			計 (29~31) D	達成率 $\frac{B+D}{A}$
			29年度	30年度	31年度		
推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進	—
(内訳) 初級障害 者スポー ツ指導員 90人	10人	80人	10人	10人	10人	30人	44.4%
スポーツ ボランテ ィア 100人	準備	100人	40人	20人	20人	80人	80.0%
		事業費 (百万円)	1	1	1	4	

○未来を担う人づくり

【044】 健やかな体の育成プロジェクト

国際陸上競技連盟が開発した世界共通プログラムについて、オリンピック等の直接指導による体験会や、体育教諭を対象とした指導方法講習会を実施し、小学生の運動能力育成とオリンピック・ムーブメントを広めていく。

全体計画 (36年度) 目標 A	28年度末 見込み B	必要量 A-B=C	年度別計画			計 (29~31) D	達成率 $\frac{B+D}{A}$
			29年度	30年度	31年度		
推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進	—
(内訳) キッズア スレティ ックス 体験	推進	推進	推進	推進	推進	推進	—
キッズア スレティ ックス 指導者育 成講習会 22回	6回	16回 事業費 (百万円)	2回 2	2回 2	2回 2	6回 6	54.5%

〇うるおいのある魅力的な都市空間の整備

【100】 駅前公衆トイレ等リフレッシュ事業

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴い、国内外問わず観光客等の増加が見込まれることから、乗降人員の多い駅の駅前公衆トイレについてリフォーム及び早朝の清掃強化を図るとともに、スポーツ施設周辺に位置する公園の公衆トイレについてバリアフリー化を進めるなど、清潔で、だれもが使いやすいトイレをめざす。

全体計画 (36年度) 目標 A	28年度 末 見込み B	必要量 A-B=C	年度別計画			計 (29~31) D	達成率 $\frac{B+D}{A}$
			29年度	30年度	31年度		
駅前トイレ 3カ所完成 公園トイレ 4カ所完成	推進	駅前トイレ 3カ所完成 公園トイレ 4カ所完成	公園トイレ 1カ所完成	駅前トイレ 1カ所完成 公園トイレ 3カ所完成	駅前トイレ 2カ所完成	駅前トイレ 3カ所完成 公園トイレ 4カ所完成	100%
(内訳) 駅前トイレ 3カ所改修	—	3カ所完成	準備	赤羽駅 整備・完成	王子駅 田端駅 整備・完成	3カ所完成	100%
公園トイレ 4カ所改修	準備	4カ所完成 事業費 (百万円)	1カ所 整備・完成 26	3カ所 整備・完成 87	44	4カ所完成 156	100%

※公園トイレは、中央公園で3カ所、稲付西山公園で1カ所改修する予定である。

《オリンピズムの根本原則》

オリンピック憲章（2016年（平成28年）8月2日） 国際オリンピック委員会

- 1 オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。
- 2 オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである。
- 3 オリンピック・ムーブメントは、オリンピズムの価値に鼓舞された個人と団体による、協調の取れた組織的、普遍的、恒久的活動である。その活動を推し進めるのは最高機関のIOCである。活動は5大陸にまたがり、偉大なスポーツの祭典、オリンピック競技大会に世界中の選手を集めるとき、頂点に達する。そのシンボルは5つの結び合う輪である。
- 4 スポーツをすることは人権の1つである。すべての個人はいかなる種類の差別も受けることなく、オリンピック精神に基づき、スポーツをする機会を与えられなければならない。オリンピック精神においては友情、連帯、フェアプレーの精神とともに相互理解が求められる。
- 5 スポーツ団体はオリンピック・ムーブメントにおいて、スポーツが社会の枠組みの中で営まれることを理解し、自律の権利と義務を持つ。自律には競技規則を自由に定め管理すること、自身の組織の構成と統治について決定すること、外部からのいかなる影響も受けずに選挙を実施する権利、および良好な統治の原則を確実に適用する責任が含まれる。
- 6 このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会のルーツ、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない。
- 7 オリンピック・ムーブメントの一員となるには、オリンピック憲章の遵守およびIOCによる承認が必要である。

《東京 2020 大会 大会ビジョン》

東京 2020 大会開催基本計画（2015年（平成27年）2月）

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

スポーツには、世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。

2020年の東京大会は、

「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」

「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」

「そして、未来につなげよう（未来への継承）」

を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

(平成 29 年 6 月現在)

東京 2020 大会開催に向けた取組み

1 各種スポーツ教室事業

(1) トップアスリート直伝教室

日本トップレベルの指導者・選手等から直接指導を受けるスポーツ教室を開催し、未来を担う子どもたちに夢と希望を与えるとともに、技術向上と、東京 2020 大会開催の気運醸成を図る。

〈平成 29 年度予定種目〉 6 種目

卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、サッカー、ラグビー



卓球教室 (平成 28 年度)



サッカー教室 (平成 28 年度)



バレーボール教室 (平成 28 年度)



バスケットボール教室 (平成 28 年度)

(2) フェンシング教室・車いすフェンシング教室

東京都フェンシング協会及び日本車いすフェンシング協会と連携を図り、通常のフェンシング教室・車いすフェンシング教室を平成 27 年 4 月から開始し、北区から東京 2020 大会の日本代表選手輩出を目指す。



(3) キッズアスレティックス

オリンピック出場選手らの専門指導員を小学校に招聘し、「跳ぶ」「投げる」「走る」の三要素を基本とした国際陸上競技連盟の世界共通の運動能力向上プログラムを実施し、身体運動の基礎能力を育成する。

また、各小学校の体育教諭を対象として指導者育成の講習会を開催し、小学校独自のプログラム展開を目指す。



(4) オリンピアンスケート教室

ウィンタースポーツの代表的種目であるスケートに対する興味関心を喚起させ、新たなスポーツ人口を創出するとともに、子どもたちのバランス感覚や体幹機能を強化するなど、運動能力の向上を図ることを目的に、オリンピックや世界選手権で活躍したスケート選手による教室を開催する。

〈平成 28 年度実績〉

実施日 10月29日(土)、11月26日(土)

会場 東大和スケートセンター

講師 大菅小百合氏(ソルトレイクシティ五輪、トリノ五輪日本代表)
石野枝里子北区スポーツコンダクター(トリノ五輪日本代表)
日本スケート連盟インストラクター



2 北区スポーツ大使の任命

(1) 目的

「トップアスリートのまち・北区」PRの旗手として、北区にゆかりのあるトップアスリートを「スポーツ大使」として任命し、さまざまな場面を通じて、北区の魅力発信を図る。

(2) スポーツ大使

①上田 春佳（うえだ はるか）氏 平成28年10月1日任命



元競泳選手（現：キックマン社員）
北区西ヶ原出身（西ヶ原小、武蔵野中学校・高等学校卒業）
2012年ロンドン五輪銅メダル（女子400mメドレーリレー）
2012年（平成24年）10月 北区区民文化奨励賞受賞

②高橋 勇市（たかはし ゆういち）氏 平成28年10月1日任命



視覚障害の陸上競技・マラソン選手（三菱商事所属）
北区在住（秋田県横手市出身）
2004年アテネパラリンピック金メダル（マラソン）
2005年（平成17年）3月 北区区民文化奨励賞受賞

③石野枝里子（いしの えりこ）氏 平成29年3月31日任命

※新規



元スピードスケート選手
2006年トリノオリンピック チームパシュート4位
2010年ワールドカップ5000m 日本記録樹立
2014～2016年度 北区スポーツコンダクター

(3) 大使の役割

北区のイベントなどに出席し、オリンピック・パラリンピックの気運醸成に努める。
また、区内外のイベント等において、主にスポーツの面から北区の魅力を発信する。

（参考）平成28年12月3日（土）
障害者週間記念講演会



3 障害者スポーツの普及

(1) 障害者スポーツ交流イベント【スポーツ推進課スポーツ推進係】

障害の有無にかかわらず子どもから高齢者まで、だれでも楽しめるスポーツイベントを開催し、区民の障害者スポーツへの理解・関心を深めるとともに東京 2020 大会の開催気運の醸成を図る。

〈平成 28 年度実績〉

①障害者スケート体験教室（どきどきスケート体験教室）

- ・樹脂製リンクを設置し、スケートや氷上そり滑走の擬似体験教室を開催した。

②知的障害者サッカー教室

- ・知的障害のある方及びその家族を対象としたサッカー教室を開催した。

③障害者週間記念講演会

- ・障害者週間に障害を持つアスリートによる講演会を実施した。

④ハートスポーツフェスタ

- ・東京都障害者総合スポーツセンター実施のスポーツイベントへ、共催事業として参加した。

⑤テニスフェスティバル

- ・障害の有無に関わらずスポーツを通じて交流できるテニスイベントを開催した。



どきどきスケート体験教室



テニスフェスティバル

(2) 初級障害者スポーツ指導員の育成【スポーツ推進課スポーツ推進係】

地域における障害者スポーツの普及と発展を目指して、障害者スポーツ指導の基礎的知識・技術を習得した人材を育成するため、日本障がい者スポーツ協会の認定を受けて、区主催の養成講習会を開催する。

また、障害者スポーツ指導員の有資格者の活躍の場を提供するため、人材登録制度を導入し、区内のイベント情報を発信していく。

〈平成 28 年度：第 1 回〉

日程：平成 29 年 2 月 25 日（土）、3 月 5 日（日）、11 日（土）、12 日（日）

対象：区内在住、在勤、在学の 18 歳以上の方

定員：30 名（抽選）

4 スポーツ施設のバリアフリー化

【スポーツ推進課スポーツ支援係】

(1) 目的

東京 2020 大会を見据え、区内スポーツ施設及び施設のアクセスルートのバリアフリー化を推進し、障害者や高齢者がスポーツに参加しやすい環境を整備する。

(2) 検討会報告

平成 26 年 11 月

- ・パラリンピック出場選手など障害者スポーツに識見のある方で構成する「北区内スポーツ施設等バリアフリー化検討会」を設置

平成 27 年 9 月

- ・9 回にわたる検討（現地調査・意見交換等）を経て、最終報告書を策定

(3) 整備実績

平成 27 年度

中央公園野球場・庭球場

- ・車いす用更衣室の新設、
- ・段差解消工事、
- ・点字ブロック（中央公園内）、
- ・車いす用観戦スペース（野球場）設置



車いす用更衣室 新設

平成 28 年度

滝野川体育館

- ・点字ブロック（滝野川公園内）

赤羽体育館

- ・点字ブロック（北本通りから施設まで）



段差解消・点字敷設

(4) 今後のスケジュール

平成 29 年度

北運動場及び赤羽スポーツの森公園競技場のバリアフリー化工事

- ・施設内の手すり設置、トイレ等の段差解消、冷水器更新（バリアフリー対応）
- 北運動場へのルート上に点字ブロックを敷設
- ・北本通りから北運動場までの区道（約 420m）に点字ブロックを敷設

5 スポーツボランティア制度の創設

※平成 29 年度 新規事業

(1) 目的

スポーツボランティア制度を創設し、スポーツ現場のボランティア確保・育成に取り組むとともに、ボランティアニーズの受け皿として機能させ、スポーツを通じた市民活動・社会貢献活動の活性化を図る。また、区のスポーツ現場を通して、東京 2020 大会におけるボランティアの担い手育成につなげ、東京 2020 大会後のボランティア文化の定着を目指す。

(2) 登録制度

①概要

- ・登録者へ区からイベント情報・ボランティア募集等の情報をお知らせ（メール配信）し、活動場所を紹介する。

②主な活動内容

- ・区、教育委員会、地域団体が主催・共催・後援するスポーツイベントの運営補助（例）会場設営、受付補助、参加者誘導

③登録要件（いずれかに該当する方）

- ・区内在住、在勤、在学の満 15 歳以上の方（中学生を除く）
- ・区内に本拠地を置くスポーツ・レクリエーション団体等の構成員で満 15 歳以上の方

※20 歳未満の場合は保護者の同意が必要。

(3) 養成講座

①概要

- ・スポーツボランティアの現場で活かせる知識・技術を学ぶ場として、養成講座を開催する（年 4 回実施予定）。

②内容（平成 29 年度開催予定）

- 第 1 回 北区スポーツボランティア制度の紹介
- 第 2 回 ボランティア活動の基本
- 第 3 回 イベントの安全管理運営と救急救命
- 第 4 回 障害者スポーツの現状等

③開催案内

- ・北区ニュース、北区ホームページ
- ・ぷらざ通信（NPO ボランティアぷらざ）
- ・メール配信 ※スポーツボランティア登録者

6 事前キャンプ誘致

(1) 目的

東京 2020 大会に向けて、区立のスポーツ施設を活用して事前キャンプの誘致に取り組み、子ども達の夢や希望、国際理解、障害者理解などのレガシー創出や、地域の活性化・魅力発信につなげていく。

(2) 事前キャンプ概要

各国・地域の選手団が、時差やコンディション調整を目的として任意に実施するトレーニング

(3) 立候補

組織委員会及び東京都が世界各国・地域の選手団に候補地を PR する紹介リストに、キャンプ受入れが可能な区立スポーツ施設を掲載した。

〈掲載内容〉

主 体	組織委員会	東京都
名 称	東京 2020 事前キャンプ 候補地ガイド	東京都事前キャンプ候補地紹介用 ホームページ
公開時期	平成 28 年 8 月 5 日 (リオ大会開会時)	平成 28 年 7 月 27 日
施設基準	I F (国際競技連盟) の 基準を満たす施設	都が定める基準 (一般利用可能な種目)
掲載施設 ・種 目	①滝野川体育館 (オリ) 柔道 ②赤羽体育館 (オリ) フェンシング (パラ) 車いすフェンシング	①滝野川体育館 ②赤羽スポーツの森公園競技場 ③赤羽体育館 【いずれも、一般利用が可能な種目を掲載】
【紹介】 宿泊施設 情 報	ホテルメッツ赤羽 ホテルメッツ田端	

(4) 平成 29 年度以降

外国の選手団に対して事前キャンプ受入れ可能施設や北区の個性・魅力を紹介する外国語版の PR 冊子を作成し、誘致活動を進めていく。

また、事前キャンプ誘致の実現に向けて、上記紹介リストの掲載のみならず、区の強みを活かしたフェンシング・車いすフェンシングの誘致活動を展開していく。

7 トップアスリートのまち・北区の推進

(1) 「ROUTE2020 トレセン通り」関連事業

日本トップレベル競技者のトレーニング施設のある西が丘からJR赤羽駅及びJR十条駅に通じる道路に愛称名を設定し、この道路がオリンピック・パラリンピックを想起させる「トップアスリートのまち・北区」のシンボルとして相応しい景観となるよう整備し、区の魅力として発信していく。

①愛称名（平成27年3月設定） ROUTE2020 トレセン通り

②愛称サイン（10か所設置）

愛称名を浸透及び定着させ、通り周辺区域をトップアスリートのまちの拠点として全国に発信していくため、愛称名のシンボルマーク（ロゴデザイン）を用いた標識を通り沿いに設置した。

〈PRイベント〉

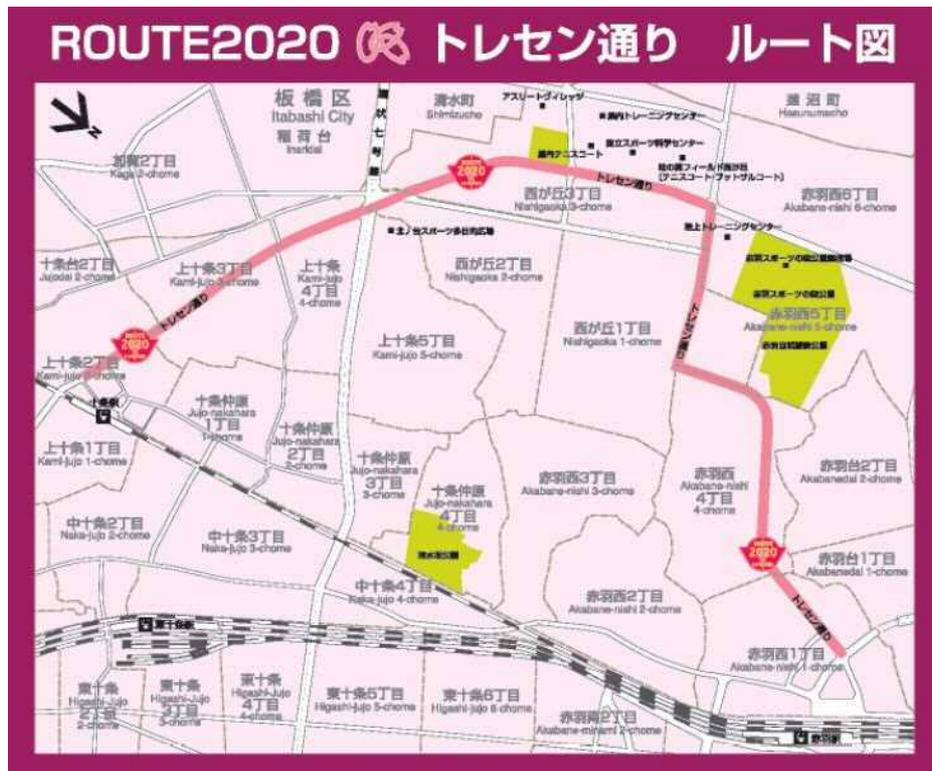
開催 平成27年9月13日（日）

- ・愛称サイン除幕セレモニー
- ・2020ウォーキングツアー
- ・アスリート交流イベント



③公共施設の総合案内サイン

ルートの起点・終点となる駅前に「トップアスリートのまち・北区」をテーマにデザインした公共施設の総合案内板を設置した。



(2) 「トップアスリートのまち・北区」 駅前 PR 広告塔

「トップアスリートのまち・北区」を区内外に効果的に発信していくため、平成 26 年度に赤羽駅西口及び十条駅北口に駅前 PR 広告塔を設置した。平成 28 年度は、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックから東京オリンピック・パラリンピックに切り替わる年度であるため、駅前 PR 広告塔がより東京オリンピック・パラリンピックを彷彿とさせるデザインとなるよう更新した。

〈新デザイン〉



赤羽駅西口（2面）



十条駅北口（4面）

〈デザイン更新〉

包括協定を結んでいる東京家政大学の学生からデザインを公募し、16 作品（8名×2枚）が応募された。JOC エリートアカデミー生及び東京都障害者総合スポーツセンター職員の投票により、2 作品を最終候補とした。

平成 29 年 2 月中旬に北区全職員（再任用、再雇用、教職員、非常勤職員を含む）対象の投票により、最終デザインを決定した。

（平成 29 年 3 月更新完了）

(3) 東京 2020 大会開催の気運を醸成するポスターの掲示

「トップアスリートのまち・北区」として、東京 2020 大会の気運醸成を図るとともに、味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）や国立スポーツ科学センター（JISS）で練習を重ねるトップアスリートを応援するため、ポスターを作成し、公共施設や各駅などに掲示した。



8 アスリートの手形モニュメントの設置

(1) 目的

オリンピック・パラリンピックが放つ特有の団結力や求心力を活用し、世界最大のスポーツイベントに関連する事業展開を行うことで、まちの活性化や地域のきずなづくりを推進するとともに、「トップアスリートのまち・北区」を構築していく。

(2) 設置場所

区立稲付西山公園

味の素ナショナルトレーニングセンター及び「ROUTE2020 トレセン通り」に隣接しており、「トップアスリートのまち・北区」を効果的にPRする。

(3) 手形アスリート

【スポーツ大使：2名】

①上田春佳スポーツ大使（北区西ヶ原小学校卒）

※ロンドンオリンピック 競泳 4×100mメドレーリレー銅メダル

②高橋勇市スポーツ大使（北区在住）

※アテネパラリンピック マラソン金メダル

【リオオリンピック出場選手：2名】

③中村航輔選手（北区王子桜中学校卒）：サッカー男子

④長谷川涼香選手（北区田端中学校卒）：競泳

【リオパラリンピック出場選手：2名】

⑤池愛里選手（北区在学）：競泳

⑥多川知希選手（北区在住）：陸上 ※4×100mリレー銅メダル

※今後、手形アスリートの数を増やしていく予定

(4) デザインコンセプト

トレセン通りを照らす象徴として炎をモチーフにデザインした。また、見て触れることのできるアスリートの手形が、北区民とオリンピック・パラリンピックを、より身近な距離へと近づけていく。

(5) 除幕セレモニー

日時 平成29年4月22日（土）午前10時

※実施結果掲載



9 インバウンド（訪日外国人）対応力の向上

（1）外国人旅行者向け観光ガイドマップ【観光振興担当】

東京 2020 大会開催に向けて、外国人旅行者にとって魅力ある北区の地域資源の効果的な情報発信を行い、北区への来訪を促進していく。

※英語版・中国語版・ハングル版 A4×12 ページ

※配付先 ・海外 北京・上海・ソウル等の旅行代理店、友好都市等
・国内 都庁・東京駅の観光案内所、区内ホテル

（2）外国人ウェルカム商店街事業【産業振興課】

東京 2020 大会を見据え、商店街に訪れる外国人におもてなしをするため、外国語会話ができなくても接客対応ができるツールとして、コミュニケーションボードを東洋大学と連携して飲食店編を作成した。

※英語版・中国語版・フランス語版・ハングル版 各1枚の4枚綴り

※平成 29 年度：小売店編を作成予定

（3）外国人旅行者等向け公衆無線 LAN（Wi-Fi）の整備

※拡充

【産業振興課・観光振興担当・区民情報課】

商店街を含む区内観光地の回遊性を高め、外国人旅行者等来街者の増加につながるため、区内施設(北とぴあ・赤羽観光 PR コーナー)に公衆無線 LAN を整備する。

また、商店街が公衆無線 LAN を整備する際に経費補助を実施（1 か所）する。

（4）来た KITA オリパラプロジェクト（ボランティア育成）【生涯学習・学校地域連携課】

東京 2020 大会の開催を見据え、区民の自主的なボランティア活動や訪日外国人に対するおもてなしを促進させるため、世界各国の歴史・文化・言語について学ぶ講座を開催する。

おもてなしに関する知識・教養を習得する場とするとともに、同じ興味・関心を持つ区民の出会いの場として機能させ、継続的な社会貢献活動につなげていく。

10 安全・安心なまちづくりの促進

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた

安全・安心なまちづくりに関する覚書【危機管理課】

東京 2020 大会の開催を見据え、国際テロ等の未然防止対策や治安対策など安全・安心なまちづくりをさらに強化するため、北区と区内3警察署と「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた安全・安心なまちづくりに関する覚書」を平成 28 年 11 月 28 日に締結した。

覚書締結後は、区内3警察署と、国際テロ等の未然防止対策、防犯カメラ対策、交通安全対策、地震・風水害対策、児童虐待や高齢者虐待対策などについて協議を推進する。

11 東京都オリンピック・パラリンピック教育

【教育指導課】

(1) 目的

東京 2020 大会を、子どもたちの人生にとって、またとない重要な機会と捉え、豊かな国際感覚を醸成し、ともに力を合わせて生活する共生社会を実現するため、都内全ての公立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等を対象とした「東京都オリンピック・パラリンピック教育」を展開する。

学校ごとに、特色及び経営方針等に基づいて年間指導計画を作成し、年間 35 時間程度を目安として計画的に教育活動を進める。

(2) 重点的に育成すべき5つの資質

①ボランティアマインド

発達段階に応じたボランティアに関わる取組みを推進する。

②障害者理解

学習や障害者スポーツの体験・交流を通して、心のバリアフリーを浸透させる。

③スポーツ志向

フェアプレーやチームワークの精神を身に付け、心身ともに健全な人間へと成長させる。

④日本人としての自覚と誇り

日本人特有の規範意識、公正・公平な態度や公共の精神などを身に付ける。

⑤豊かな国際感覚

世界の多様性を受け入れ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする力を育成する。

(3) 4つのプロジェクト

①東京ユースボランティア

各学校が取り組んできた社会奉仕活動を充実・拡大する。

②スマイルプロジェクト

障害者スポーツの観戦や体験・交流などを行い、思いやりの心を育成する。

③夢・未来プロジェクト

アスリート等を学校に派遣し、オリンピック・パラリンピックのすばらしさを実感するとともに、夢に向かって努力する意欲を培う。

④世界ともだちプロジェクト (Global Friendship Project)

東京都から割り当てられた大会参加予定国について、各学校が幅広く学び、実際の交流へと深化させていく。

12 スポーツコンダクター制度

※リニューアル（平成 29 年度～）

（1）目的

世界の大舞台で活躍したアスリートが持つ経験やこれまでの実績を活かしたスポーツ指導や講演等を行い、スポーツへの関心や運動能力の向上を図るとともに、東京 2020 大会に向けた開催気運の醸成を図ることを目的とする。

アスリートの協力を得て、さまざまな事業・イベントに派遣していく。

（2）スポーツコンダクター

北区ゆかりのアスリート

（例）北区スポーツ大使

区内在住・在勤・在学のアスリート
事業等で関わりのあるアスリート



（3）実施内容

（例）運動の実技指導

講演（学校・保護者・地域等）
スポーツ推進に係る業務



（4）過去に協力いただいた主なアスリート

①石野枝里子氏（元スピードスケート選手）

・北区スポーツ大使

2006 年トリノオリンピック チームパシュート 4 位入賞

2014～2016 年度：スポーツコンダクター専任（非常勤職員）

②上田春佳氏（元競泳選手）

・北区スポーツ大使

2012 年ロンドンオリンピック 4×100mメドレーリレー 銅メダル

③高橋勇市氏（マラソン選手）

・北区スポーツ大使

2004 年アテネパラリンピック マラソン視覚障害の部 金メダル

④多川知希氏（陸上選手）

・2016 年リオパラリンピック 陸上 4×100mリレー 銅メダル

⑤安 直樹氏（車いすフェンシング選手）

・北区主催車いすフェンシング教室参加
日本選手権大会優勝

⑥大山妙子氏（元バスケットボール選手）

・2004 年アテネオリンピック出場

13 北区リレーションシップ協議会

(1) 目的

東京 2020 大会に向けて、関係団体・地域の連携強化を図り、北区全体で開催気運を醸成するとともに、地域の自主的な取組みを促進するため、関係団体・地域等で構成された北区リレーションシップ協議会を設置する。

(2) 開催頻度

年2回程度開催（平成 28 年 12 月 19 日に第 1 回を開催）

(3) 構成員

区分	No.	団体等
学識経験者	1	東洋大学 ライフデザイン学部健康スポーツ学科 教授
スポーツ	2	北区スポーツ大使
	3	北区スポーツ大使
	4	独立行政法人 日本スポーツ振興センター 西が丘管理部
	5	東京都障害者総合スポーツセンター
	6	公益財団法人 東京都北区体育協会
	7	れっど★しゃっふる（地域総合型スポーツクラブ）
	8	北区スポーツ推進委員協議会
地域・産業	9	北区町会自治会連合会
	10	北区商店街連合会
	11	東京商工会議所北支部
文化・観光	12	一般社団法人 東京北区観光協会
	13	公益財団法人 北区文化振興財団
教育	14	北区立小学校体育会
	15	北区立中学校体育会
	16	北区立小学校 PTA 連合会
	17	北区立中学校 PTA 連合会
	18	北区青少年地区委員会会長会
	19	北区青少年委員会
行政	20	北区政策経営部長
	21	北区地域振興部長
	22	北区教育委員会事務局教育振興部長

14 その他の取組み

(1) 2016 リオデジャネイロ競技大会に関する取組み

① 応援メッセージフラッグ・DVD の寄贈

(平成 28 年 6 月 27 日)

- ・日本代表選手に向けた応援メッセージを作成し、JOC へ寄贈した。



② 日本代表選手団のお見送り

- ・NTC から出発する競技団体 (4 団体) に対し、お見送りを実施した。

③ 北区ゆかりの日本代表選手への懸垂幕等の掲示

(2) NO LIMITS CHALLENGE (東京都パラリンピック体験プログラム)

- ・赤羽体育館オープニングイベント内で実施 (平成 29 年 1 月 29 日)

実施競技 車椅子バスケットボール、陸上競技用車椅子

出演者 根木慎志氏 (車椅子バスケットボール元日本代表)

鈴木朋樹氏 (陸上競技)

田中琴乃氏 (新体操)

(3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック フラッグツアー

① フラッグ歓迎セレモニー

- ・赤羽体育館オープニングイベント内で実施 (平成 29 年 1 月 29 日)

スペシャルアンバサダー TOKIO 長瀬智也氏

アンバサダー 根木慎志氏 (車椅子バスケットボール元日本代表)



② フラッグ展示

- ・期間 平成 29 年 2 月 18 日 (土) ~ 24 日 (金)

- ・場所 北とぴあ 1 階 区民プラザ

(4) カウントダウンサイン

- ・東京 2020 大会開催までの日めくり

サインを設置

(赤羽体育館：平成 29 年 1 月 29 日設置)



(5) アスリート就職支援「アスナビ」事業（北区・板橋区合同）

アスリートの練習拠点と区内企業が近い距離にある地理的優位性を活かし、アスリートの経済基盤と練習環境を結び付ける支援を行うとともに、産業の活性化に資する取組みを実施する。



実技を披露（平成 28 年）

〈平成 29 年度〉 アスナビ説明会（第 4 回）

日 時 平成 29 年 7 月 19 日（水）

場 所 味の素ナショナルトレーニングセンター

主 催 公益財団法人 日本オリンピック委員会

共 催 北区、板橋区、東京商工会議所城北ブロック

アスナビ採用事例（主な選手）

城北信用金庫 清水珠夏氏（陸上競技・走り幅跳び）平成 27 年入庫

大村朱澄氏（カヌー・スプリント・カヤック）平成 27 年入庫

山田あゆみ氏（フェンシング・エペ）平成 27 年入庫

久良知美帆氏（フェンシング・フルーレ）平成 28 年入庫

山田美諭氏（テコンドー）平成 28 年入庫

鈴木沙織氏（スキー・フリースタイル）平成 28 年入庫

日本製紙総合開発株式会社 小池詩織氏（アイスホッケー）平成 27 年入社

株式会社なとり 大橋里衣氏（フェンシング・エペ）平成 27 年入社

東京書籍株式会社 鈴木セルヒオ氏（テコンドー）平成 29 年 4 月入社

(6) スポーツ祭り 2016 における北区連携プログラム

スポーツ庁及び公益財団法人 日本オリンピック委員会等が主催する「体育の日」中央記念行事・スポーツ祭り（会場：味の素ナショナルトレーニングセンター）の、地元北区の児童等による「憩いの広場ステージ」運営をサポートする。

〈平成 28 年度〉 北区ステージ出演団体

- ・西が丘児童館バトンクラブ
- ・YOCS All Star Cheer STARS Crystal（チアリーディング）



区内企業とのパートナーシップ協定の締結について

1 要 旨

北区では、日本オリンピック委員会が主催する「アスナビ」（企業と現役トップアスリートをマッチングする就職支援制度）に平成 26 年度から共催として参画しており、アスリートを雇用する区内企業が増えてきている。

そこで、北区と区内企業が官民を越えたネットワークを構築し、区内企業が有するスポーツ推進に資する人的・知的・物的資源を活用して、スポーツを軸とした地域活力の向上及び東京 2020 大会の気運醸成を推進するため、連携を深めていく。

については、アスリートを積極的に雇用し、東京都スポーツ推進企業として東京都の認定を受けている城北信用金庫とパートナーシップ協定を締結することとし、以後対象を拡大していく。

※アスナビ：アスリートの練習拠点（NTC）と区内企業が近い距離にある地理的優位性を活かし、アスリートの経済基盤と練習環境を結び付ける支援を行うとともに、産業の活性化に資する取組みとして実施している。

2 事業概要

(1) 提携対象

- ・アスリートを雇用している企業・団体
- ・スポーツ及びプロモーションに関連する企業・団体

(2) 主な連携事業（予定）

- ・北区主催の講演会・イベントへのアスリート派遣
- ・小中学校のオリンピック・パラリンピック教育への講師派遣
- ・スポーツに関連した地域振興事業の連携
- ・東京 2020 大会に向けた気運醸成事業の連携

3 今後の予定

平成 29 年 7 月以降 制度発足の P R
城北信用金庫と協定締結

【参考①】

城北信用金庫アスリートクラブ

選手名 (敬称略)	競技種目
しみず たまか 清水 珠夏	陸上競技・走り幅跳び
おおむら あすみ 大村 朱澄	カヌー・カヤック
やまだ 山田 あゆみ	フェンシング (エペ)
くらち みほ 久良知 美帆	フェンシング (フルーレ)
やまだ みゆ 山田 美諭	テコンドー
すすき さおり 鈴木 沙織	スキー (フリースタイル)
もりおか みほ 森岡 美帆	フェンシング (エペ)
おおとし くみ 大利 久美 (マネージャー)	陸上競技・20 km 競歩
おの ひろみ 小野 裕美 (マネージャー)	フィンスイミング

【参考②】

アスナビ採用事例 (区内企業 ※城北信用金庫を除く)

企業名	選手名 (敬称略)	競技種目
日本製紙総合開発株式会社	こいけ しおり 小池 詩織	アイスホッケー
株式会社なとり	おおはし りえ 大橋 里衣	フェンシング (エペ)
東京書籍株式会社	すすき 鈴木 セルヒオ	テコンドー

北区で始まるスポーツボランティア



北区

SPORTS VOLUNTEER
GUIDEBOOK

スポーツ ボランティア ガイドブック



地域でスポーツを支えて、北区を盛り上げよう



トップアスリートのまち・北区

目次 contents

I. 北区スポーツボランティア制度について 2~3

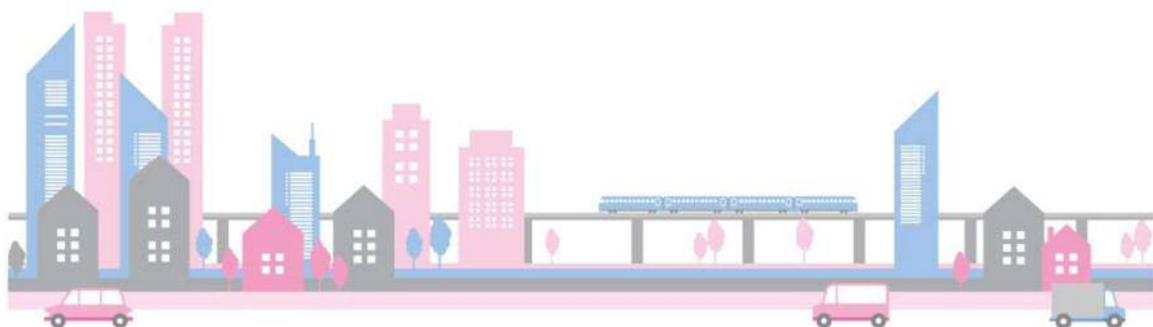
- 北区スポーツボランティア制度の概要
- 登録から活動までの主な流れ

II. スポーツボランティア活動について 4

- スポーツボランティアとは
- スポーツボランティアの3分類
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア

III. ボランティア活動について 5~6

- ボランティア活動の特徴
- ボランティア活動の心得
- 活動時の持ちもの(例)



I. 北区スポーツボランティア制度について

目的

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたボランティアニーズに応えるため、活動の場とボランティア情報を提供し、スポーツボランティア育成に取り組みます。また、地域で「スポーツを支える」環境を整備し、東京2020大会後もスポーツを通じた地域の活性化をめざします。



概要

スポーツボランティア制度に登録された方は、以下のようなボランティア活動に参加することができます。また、ボランティア活動に関連した情報などを区からメール配信します。

主な活動内容

- ・区または教育委員会が主催、共催、後援するスポーツイベントの運営補助
 - ・区民または地域団体が主催するスポーツ推進事業等の運営補助
- (例) 会場の設営、受付補助、参加者誘導

登録要件(いずれかに該当する方)

- ・区内在住、在勤、在学の満15歳以上の方(中学生を除く)
 - ・区内に本拠地を置くスポーツ・レクリエーション団体等の構成員で満15歳以上の方
- ※20歳未満の方が申請する場合は、保護者の同意が必要となります。

登録について

- ・北区スポーツボランティア登録申請書(第1号様式)をご記入のうえ、下記登録・問合せ先に郵送、FAX、持参またはE-mailでご提出ください。
- ・登録内容に変更等が生じた際には、北区スポーツボランティア登録内容変更・登録取消届(第2号様式)をご提出ください。
- ・登録は年度ごとに自動更新いたします。

保険について

- ・活動に際しては、区が「スポーツ安全保険」に加入します(保険料は区が負担します)。

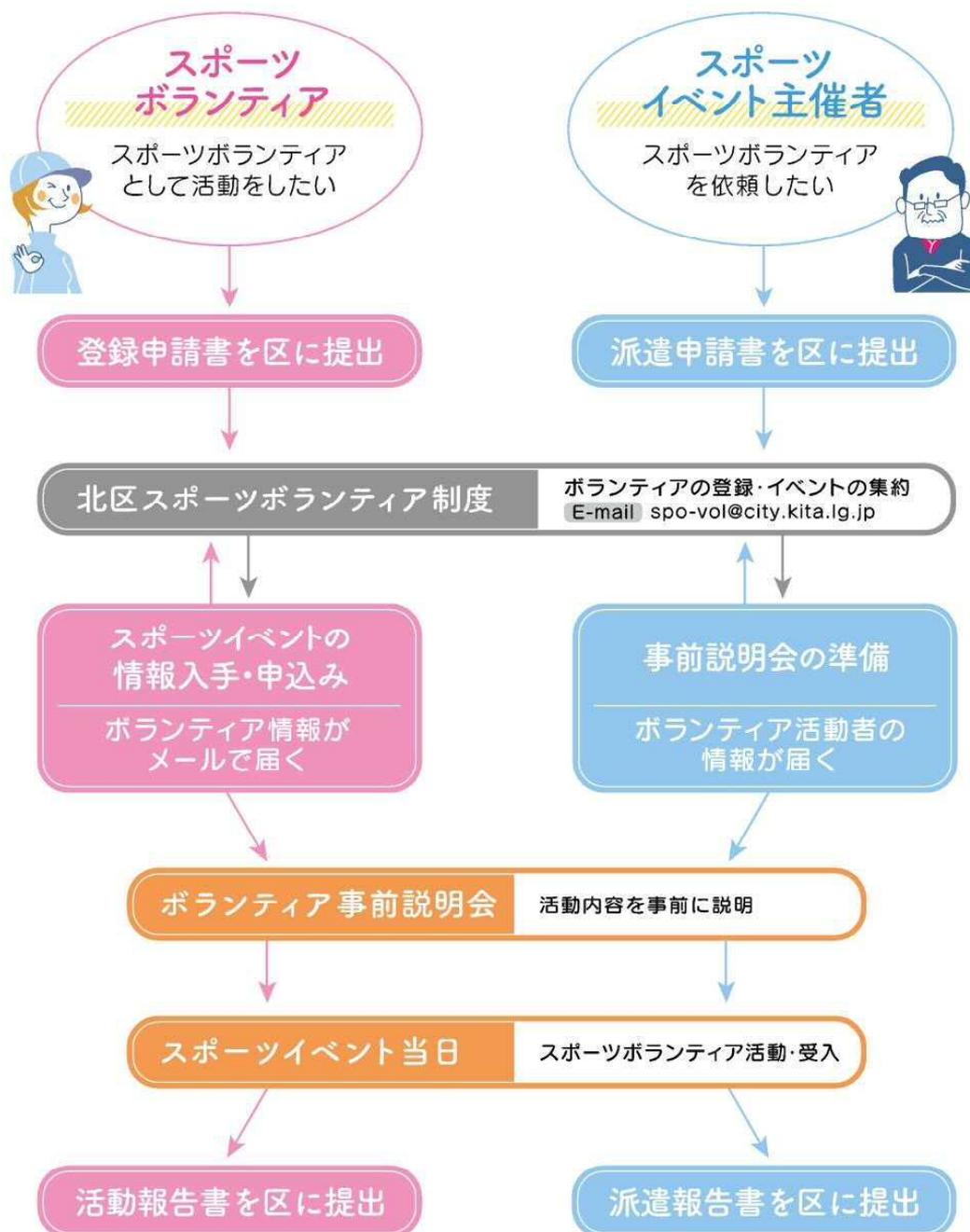
登録・問合せ先

北区地域振興部 東京オリンピック・パラリンピック担当課
〒114-8503 北区王子1-11-1 北とびあ10階
TEL: 03-5390-1136 FAX: 03-5390-1137
E-mail: spo-vol@city.kita.tg.jp



※1 各様式は、北区ホームページに掲載しています。URL: https://www.city.kita.tokyo.jp/ori_para/spo-vol.html
※2 北区スポーツボランティア制度は、東京2020オリンピック・パラリンピックにおけるボランティアと別事業です。

登録から活動までの主な流れ



スポーツボランティア養成講座（受講は任意）

スポーツボランティアとしての知識を身に付けていただくために、養成講座を年4回実施予定です。講座内容や日時等については、北区ニュースやホームページ、メール配信等でお知らせいたします。

Ⅱ. スポーツボランティア活動について

スポーツボランティアとは

地域におけるスポーツクラブやスポーツ団体において、報酬を目的としないで、クラブ・団体の運営や指導活動を日常的に支え、また、国際競技大会や地域スポーツ大会などにおいて、専門的能力や時間などを進んで提供し、大会運営を支える人のことをいう。

出典：『スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究
(スポーツにおけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究)』平成26年度文部科学省

スポーツボランティアの3分類

① イベントボランティア 不定期

地域における市民マラソンやスポーツ大会などを支えるボランティア

- 専門ボランティア：専門的な知識や技術が必要
(例) 審判、通訳、医療救護
- 一般ボランティア：特別な技術や知識を必要とせず誰もが参加できる
(例) 案内、受付、記録・掲示、交通整理



② クラブ・団体ボランティア 定期

- ボランティア指導者：監督やコーチ、アシスタントスタッフを務める
- 運営ボランティア：クラブや団体の役員や幹事、運搬・運転、広報など

③ アスリートボランティア 不定期

現役・OBのプロスポーツ選手やトップアスリートによるボランティア活動

(例) 地域イベントへの参加、ジュニア世代の指導、施設訪問



東京2020オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア

	大会ボランティア	都市ボランティア
運営主体	組織委員会	東京都
活動場所	競技会場、選手村などの大会関係施設	空港・主要駅・観光地及び競技会場の最寄駅周辺
活動内容	観客サービス、競技運営のサポート、メディアのサポートなど	国内外の旅行者に対する観光・交通案内及び競技会場の最寄駅周辺における観客への案内など
規模	合計で9万人以上を想定	

※募集時期(予定)：平成30(2018)年夏頃(都市ボランティアの一部は、平成29(2017)年度末頃から前倒し)

Ⅲ. ボランティア活動について

ボランティア活動の特徴

① 自分から進んで行動する 自主性・主体性

ボランティア活動は、誰かに強制されたり、義務として行うものではなく、自分自身の考えによって始まります。自ら「やってみよう」という気持ちを大切にすることから、行動につながります。



② ともに支え合い、学び合う 社会性・連帯性

ボランティア活動は、たくさんの人が支え合い、学び合うことによって成り立ちます。相手のことを思いやる気持ちをもって、活動することが大切です。



③ 見返りを求めない 無償性・無給性

ボランティア活動は、個人的な利益や報酬を目的にした活動ではありません。活動をする中で、出会いや発見、感動、よろこびを得ることができ、自分自身の成長にもつながります。



④ よりよい社会をつくる 創造性・先駆性・開拓性

ボランティア活動には、社会の新たな課題を解決する力があります。自由な発想やアイデアを出し合うことで、よりよい社会をつくることにつながります。



ボランティア活動の心得

① コミュニケーションを大切にしよう!

- ★元気のよいあいさつと自己紹介を心がけましょう。
- ★笑顔を心がけましょう。
- ★ホウ・レン・ソウを心がけましょう。
 - 報告(ホウ):活動が完了したときは報告する
 - 連絡(レン):予定に変更などが生じたときは連絡する
 - 相談(ソウ):困ったことが起きたときは相談する



② ルールやマナーを守りましょう!

- ★集合時間、場所は必ず確認し、遅れないように行きましょう。
どうしても遅れてしまうときは、すぐに活動先(担当者)に連絡しましょう。
- ★持ち物、服装、活動のルールなどを確認しましょう。



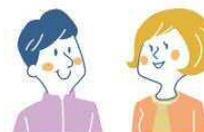
③ プライバシーを守りましょう!

- ★個人情報等の取扱いに気をつけましょう。ボランティア活動中に知り得た個人情報等は、絶対に他の人に話してはいけません。



④ 相手を認め、お互いの立場を尊重しましょう!

- ★相手の意見をきちんと聞きましょう。意見交換をし、互いに認め合い尊重していくことが大切です。



⑤ 「安全」に対する配慮を心がけましょう!

- ★参加者が安全にスポーツを楽しむために、危険がないか確認しましょう。
- ★ボランティア自身も無理をせず、できることからスタートしましょう。
- ★体調管理に気をつけましょう。体調が悪いときは無理をせず、責任者に相談しましょう。



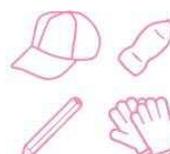
⑥ できることを積極的に行動しましょう!

- ★自分で気づいたことやできることを見つけて、積極的に活動しましょう。
- ★スポーツボランティアを楽しみましょう。



活動時の持ちもの(例)

- | | | |
|--------------|--------|----------------|
| ■ 活動マニュアル | ■ 筆記用具 | ■ メモ用紙 |
| ■ ポケットティッシュ | ■ タオル | ■ 飲食物(水分補給と軽食) |
| ■ 雨具(レインコート) | ■ 帽子 | ■ 軍手 |





トップアスリートのまち・北区

北区スポーツボランティアガイドブック

平成29年5月発行

刊行物登録番号
29-1-010

編集・発行

東京都北区

地域振興部東京オリンピック・パラリンピック担当課

住所: 北区王子1-11-1 北とびあ10階

TEL: 03-5390-1136

協 力

北区NPO・ボランティアぶらざ

(指定管理者 特定非営利活動法人東京都北区市民活動推進機構)

東京 2020 大会 1000 日前記念イベントの開催について

1 要 旨

区民の意識・関心が高まる記念日に絡めてスポーツイベントを実施し、東京 2020 大会開催の更なる気運醸成を図るとともに、オリンピック・パラリンピック関連施設を区内に有する北区ならではのイベントとし、活気に満ち溢れた「トップアスリートのまち・北区」としての取組みを北区内外に発信していく。

2 開催内容（予定）

(1) 開催概要

名 称 東京 2020 大会 1000 日前記念 北区スポーツ体験イベント
主 催 北区
協 力 アシックスジャパン株式会社
※東京 2020 大会ゴールドパートナー（スポンサー）
東京都障害者総合スポーツセンター
日 程 平成 29 年 11 月 12 日（日）10:00～16:00
会 場 赤羽体育館
対 象 当日の自由参加（一部事前申込制）
参加料 無料

(2) プログラム内容

- ①アスリート交流教室
 - ・アスリートによる直接指導や交流することのできる各種教室
 - ・オリンピック・パラリンピック競技種目の体験
- ②PRブース展示
 - ・北区の取組み紹介
 - ・障害者スポーツの啓発

3 今後の予定

平成 29 年 10 月

北区ニュース特集号（10/20）へプログラム等掲載

東京2020応援プログラム

地域の取組から、東京2020大会を盛り上げていきましょう！

地域の行事



スポーツを通じた国際交流



環境に配慮したイベント



前衛的な文化イベント



大会ブランドについて

オリンピック、
パラリンピック
を盛り上げたい！

「オリンピック」
「パラリンピック」
「東京2020大会」などの
文言を使いたい！
大会エンブレムを使用
したい！

非営利団体（自治会・町内会等、商店街、NPOなど）

「大会ブランド」は自由に使用できない（知的財産）

- ◆ 「オリンピック」、「パラリンピック」等の文言
- ◆ 「東京2020大会」等の大会名称
- ◆ 大会エンブレム



【東京2020オリンピック
エンブレム】



【東京2020パラリンピック
エンブレム】

大会エンブレムを使用できるのは、大会スポンサー、大会放送権者、開催都市、政府、会場関連自治体、JOC、JPC、組織委員会です。

応援プログラムとは

- 皆さんの「アクション」を、東京2020大会につなげるためのプログラムですので、ぜひご活用ください
- 応援プログラムの認証を受けると、次のことが可能です
 - ① 「東京2020応援プログラム」という用語、応援マークの使用
 - ② 「オリンピック」、「パラリンピック」、「東京2020大会」などの文言の使用 ※タイトル以外(説明文等)への文言使用

(例)東京2020応援プログラム ○○○イベント

～オリンピック・パラリンピックに向けた●●●を実施します～



東京2020応援マークは、大会エンブレムの基礎である「多様性」「つながる」「参加性」を表す「3つの異なる四角形」の組み合わせから、デザインされています。

※応援プログラムの申請にあたっては、組織委員会ホームページで公開されている東京2020参画プログラムガイドライン・応援マークガイドライン等をご参照ください。

マーク使用例



ポスターやHPに



地域の動画に



講演やステージの演出に



のぼり旗や横断幕に

応援プログラムの注意事項

●非営利団体のアクションであること

非営利団体・・・府県市町村(会場関連自治体を除く)、自治会・町内会等、商店街、学校法人
・準学校法人、公益社団・財団、一般社団・財団、NPO等

●非営利の事業であること

- ・企業や団体、製品等の宣伝や販売が主たる目的でないこと
- ・入場料、参加料等を徴収する場合、事業の目的及び内容に対し、社会通念上適当な額であること

●反社会的勢力との関係がないこと

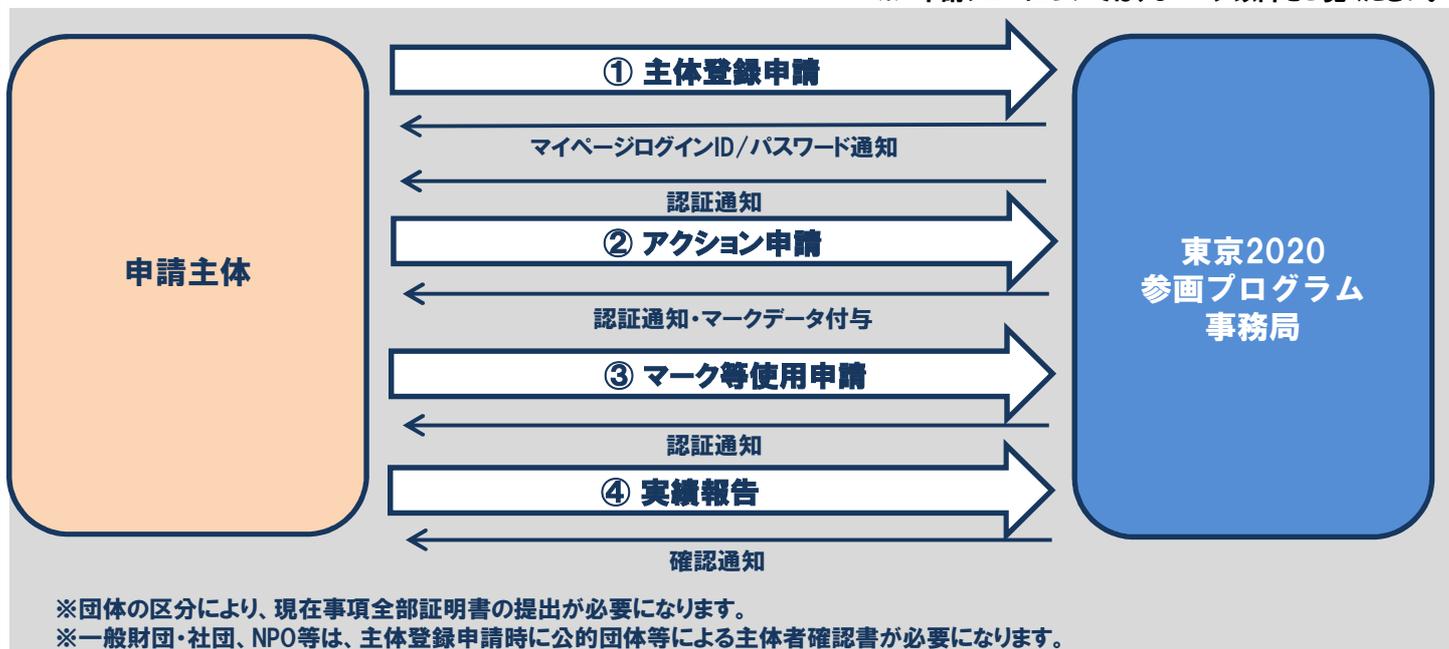
●政治活動、宗教の布教・勧誘等を目的としてないこと

●大会スポンサーの権利に影響を及ぼすもの

- ・スポンサー以外の企業の名称が露出してはいけません
- ・スポンサー以外の食品や物品の提供はできません
- ・東京2020大会の運営は、大会スポンサー等からの協賛金収入によって行われています

応援プログラムのWEB申請方法

※ 申請フローについては、5ページ以降をご覧ください。



≪自治会・町内会等、商店街の場合≫



平成29年7月中に受付を開始します(詳細は組織委員会ホームページをご参照ください)

応援プログラムの申請フロー

① 主体登録 申請団体の登録(自治会・町内会等、商店街の場合は7ページ参照)

1) 誓約書兼同意書をホームページからダウンロード
代表者の署名・捺印をする

※団体の区分により、現在事項全部証明書の提出が必要になります。
※一般財団・社団、NPO等は、主体登録申請時に公的団体等による主体者確認書が必要になります。

2) 申請サイトの主体申請仮登録ページにメールアドレスを入力

3) ID/パスワードが登録アドレスへメールで届く
メール文中のURLをクリック

4) 主体申請入力画面より必要事項を入力
誓約書兼同意書のPDFデータをアップロード
申請ボタンをクリック

5) 登録情報の不備通知メールが届いたらマイページ上で修正

6) 認証メールが届いたら登録完了

主体登録認証メールが届くまで、アクション申請はできません

② アクション申請 実施するアクション(イベント)の登録

1) 必要書類を用意

企画書または事業計画書・事業体制図

主催・共催・協力・協賛など事業の実施体制を示すもの

収支計画書

事業収支に関わる収支と収入を示すもの

※該当する場合は下記書類もご用意ください

料金体系が分かる資料

参加料が必要な場合

出展者一覧と出展料金が分かる資料

出展がある場合

(任意)告知用イベント関連画像データ(過年度実施した同イベントの写真等)

組織委員会ホームページ上での告知を希望する場合

2) マイページより必要事項を入力

1)のデータをアップロードして申請ボタンをクリック

3) 登録情報の不備通知メールが届いたらマイページ上で修正

4) 認証メールが届いたら登録完了

アクション認証メールが届くまで、マーク申請はできません

③ マーク申請 アクション(イベント)で使用するマークの登録

1)マイページからマークデータをダウンロード



2)マークを使用したデザインデータを用意



3)申請サイトにアクセス マイページより必要事項を入力



4)2)のデータをアップロードして申請ボタンをクリック



5)登録情報の不備通知メールが届いたらマイページ上で修正



6)認証メールが届いたら登録完了

認証メールが届くまで、マークは使用できません

④ 実績報告 アクション(イベント)後の実績報告

1)必要書類を用意

事業報告書またはニュースリリース
取り組み概要が分かるもの
開催時の記録画像1~3枚程度



2)マイページより必要事項を入力

1)のデータ・画像データをアップロードして申請ボタンをクリック



3)登録情報の不備通知メールが届いたらマイページ上で修正



4)認証メールが届いたら登録完了

※申請団体が自治会・町内会等、商店街の場合は主体登録のみフローが異なります

上記申請団体の主体登録は、所在地の自治体が代理申請を行います

- ◇申請団体の登録情報（団体名・部署名・担当者名・電話番号・FAX番号・担当者アドレス・住所等）及び必要書類をご用意ください

① 主体登録 申請団体の登録

申請団体

所在地の自治体

1) 誓約書兼同意書をホームページからダウンロードする
代表者の署名・捺印の上、
団体登録に必要な情報を自治体へ提出

2) 申請サイトのマイページから入力
誓約書兼同意書のPDFデータをアップロード
申請ボタンをクリック

3) ID/パスワードが申請団体担当者へ
メールで届く
メール文中のURLをクリックして
申請団体マイページを確認

4) 登録情報の不備通知メールが
届いたらマイページ上で修正

5) 認証メールが届いたら主体登録完了

5) 申請団体の主体登録完了メールが届く

主体登録認証メールが届くまで、アクション申請及びマーク申請はできません

申請時はホームページ (URL <https://tokyo2020.jp/>)
「東京2020参画プログラムガイドライン」
「東京2020公認マーク／応援マークガイドライン」
「東京2020参画プログラムマーク等取り扱い基準」
を必ずご確認ください

ホームページ上では申請に関する情報を
順次更新していきますので最新情報をご確認ください

お問い合わせは
「東京2020参画プログラムコールセンター」へ
TEL:0570-00-6620

東京2020大会マスコットについて（お知らせ）

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会において、東京2020大会におけるゲストの歓迎や日本の文化・魅力を紹介する存在として、マスコットのデザイン募集を行う旨の要項が発表された。

1 マスコットの役割

選手や訪問客を歓迎し、子どもやファンの興奮をかきたて、オリンピック・パラリンピックの精神を伝える大会アンバサダーとしての役割が期待されている。

【マスコットの参考例】 リオ2016大会マスコット ©IOC/IPC



オリンピックマスコット



パラリンピックマスコット

2 応募資格

- ・平成29年4月1日時点で18歳以上の方
- ・日本国籍の方および日本在住の外国籍の方（住民票をお持ちの方）
- ・個人または10名以内のグループ

3 応募期間

平成29年8月1日（火）正午～平成29年8月14日（月）正午

4 審査

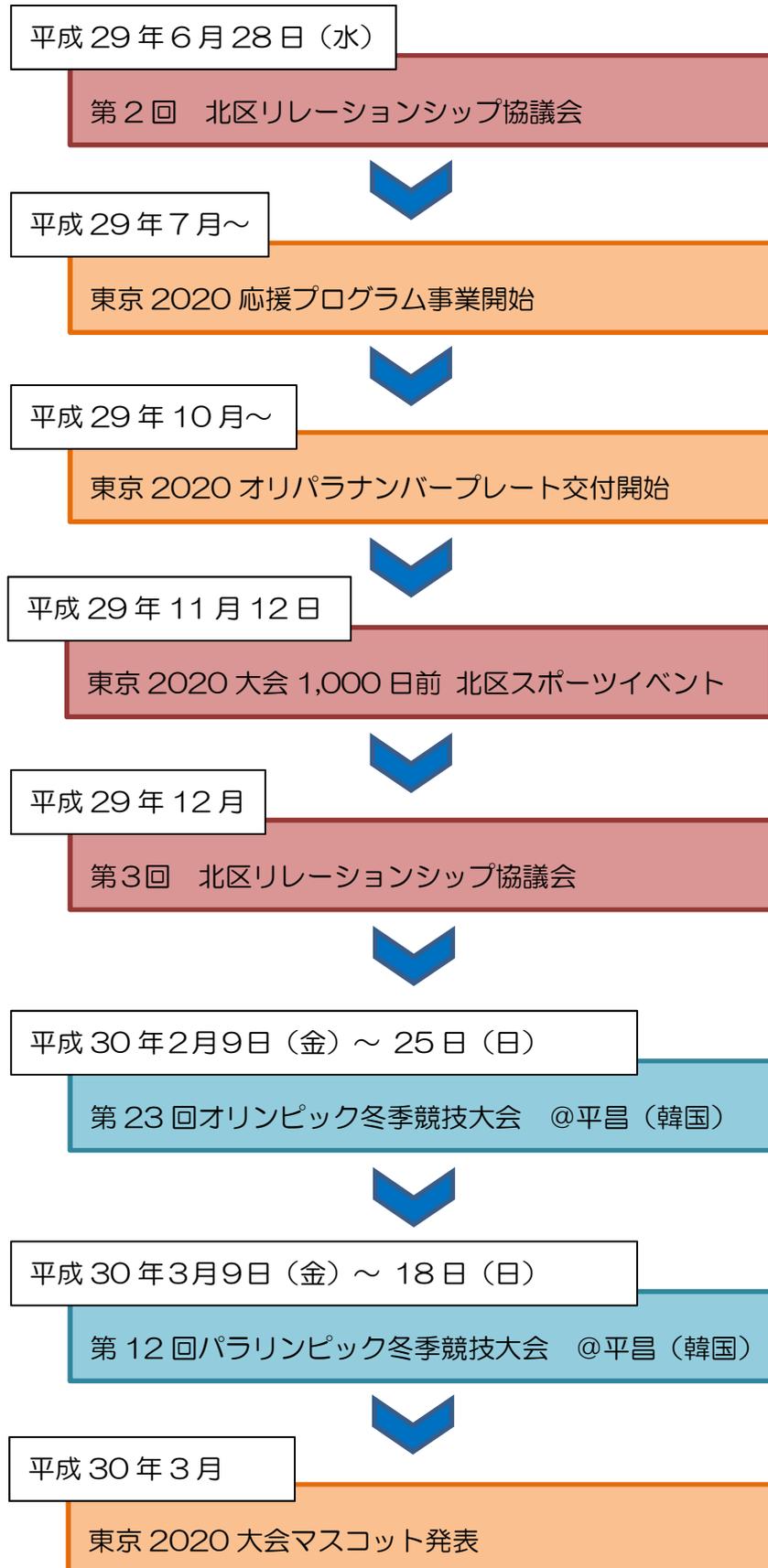
マスコット審査会（有識者等で構成）から最終審査候補が3～4案公表され、これに対し全国の小学校のクラス単位での投票（平成29年12月頃予定）が最終審査として実施される。

その後、東京2020組織委員会理事会によって最終決定となる。

5 その他

マスコットに関する詳細については、東京2020組織委員会のホームページ（<https://tokyo2020.jp/jp/games/mascot/>）参照。

今後のスケジュール（予定）





世界で輝け未来のトップアスリート

全国の将来性豊かなアスリートを発掘するための
プロジェクトがスタート！

★★ エントリー受付中 ★★

6月9日(金)～7月13日(木)まで 詳しくは

みてるよ、自分。

J-STAR PROJECT^{*}は、オリンピック・パラリンピック日本代表を目指すあなたの想いを応援します

*JAPAN RISING STAR PROJECTの略称



スポーツ庁
スポーツ庁

JAPAN SPORT
COUNCIL
日本スポーツ振興センター

独立行政法人日本スポーツ振興センター



公益財団法人日本オリンピック委員会



公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

公益財団法人
日本体育協会

公益財団法人日本体育協会

独立行政法人日本スポーツ振興センター委託事業 アスリートパスウェイの戦略的支援 (地域ネットワークを活用したアスリート育成パスウェイの整備)

問合せ先 公益財団法人日本体育協会 国体推進部 競技支援課 J-STAR プロジェクト事務局
Tel: 03-3481-2453 Fax: 03-3481-2284 Mail: j-star@japan-sports.or.jp

JAPAN RISING STAR PROJECT ホームページ
<https://www.j-star.info/>



JAPAN RISING STAR PROJECT

世界で輝け未来のトップアスリート

全国の将来性豊かなアスリートを発掘するためのプロジェクトがスタート！

平成29年4月より開始された第2期スポーツ基本計画及び平成28年10月に発表した「競技力強化のための今後の支援方針(鈴木プラン)」では、アスリートの発掘が重要な課題として位置付けられました。このことから、本年度、公益財団法人日本体育協会(以下、「日体協」)は、独立行政法人日本スポーツ振興センターから委託を受け、「競技力向上事業」の一環として、全国の将来性豊かなアスリートを発掘するためのプロジェクト「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」を実施いたします。

日体協は、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会などの関係団体と連携して全国各地で発掘プログラムを展開し、競技毎に拠点となる都道府県にて、世界レベルの指導者とともに合宿形式でのトレーニング等を行います。

本プロジェクトを通じて、オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて有望なアスリートを発掘し、競技団体の強化育成コースに導きます。

平成29年度概要

オリンピック競技

【対象年齢】

中学生・高校生年代(満12歳~満17歳:平成29年4月1日現在)

【対象競技】

水泳(飛込)
ボート
ウェイトリフティング
ハンドボール
7人制ラグビー(女子)
自転車
ソフトボール(女子)

【測定会日程】

7/26(水) 北海道立総合体育センター(北海道・札幌市)
※7/25(火)から7/26(水)に変更しましたのでご注意ください。
7/29(土) 東北文化学園大学(宮城県・仙台市)
8/3(木) 岡山県総合グラウンド体育館(岡山県・岡山市)
8/5(土) 至学館大学(愛知県・大府市)
8/11(金・祝) 東総合スポーツセンター(新潟県・新潟市)
8/18(金) 高松市総合体育館(香川県・高松市)
8/20(日) 大阪体育大学(大阪府・泉南郡熊取町)
8/26(土) 日本体育大学(東京都・世田谷区)
9/17(日) 福岡大学(福岡県・福岡市)

【中央合宿】

11/3(金・祝)~4(土) 日本体育大学(東京都・世田谷区)

パラリンピック競技

【対象年齢】

中学生年代~30歳代(満12歳~満38歳:平成29年4月1日現在)

【対象競技】

ボッチャ
水泳
パワーリフティング
車いすフェンシング
自転車

【測定会日程】

7/30(日) 東北文化学園大学(宮城県・仙台市)
8/6(日) 至学館大学(愛知県・大府市)
8/13(日) 京都市障害者スポーツセンター(京都府・京都市)
9/10(日) 障害者スポーツ文化センター(神奈川県・横浜市)
9/18(月・祝) 福岡大学(福岡県・福岡市)

【中央合宿】

11/4(土)~5(日) 日本体育大学(東京都・世田谷区)

オリンピック競技・パラリンピック競技共通

【競技拠点県合宿等】

11月下旬~ 各競技拠点県内
※各競技の拠点県については、ホームページをご確認ください

選考フロー

第1ステージ

— エントリー受付期間 —

平成29年6/9(金)~7/13(木)

選考

第2ステージ

— 測定会 —

平成29年7月下旬~9月中旬

選考

第3ステージ

— 合宿 —

平成29年11月~

※エントリー受付期間を変更しましたのでご注意ください。

お申し込みはこちら ▶▶▶ <https://www.j-star.info/entry/>



JAPAN RISING STAR PROJECTは、オリンピック・パラリンピック日本代表を目指すあなたの想いを応援します。

公益財団法人日本体育協会 国体推進部競技支援課 J-STARプロジェクト事務局

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館2階 Tel : 03-3481-2453 Fax : 03-3481-2284

<https://www.j-star.info/>

【基本方針】 大会組織委員会・東京都・政府等が主体となる活動に対して連携・参画していくことに加えて、オリンピック・パラリンピックを契機として、東商ならではの強みを活かした独自の活動を展開し、会員企業・地域にレガシーを形成する。

東商独自の活動

第1の柱	「東商のレガシー形成を見据えた独自の活動展開」	
	2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、大会後の会員企業や地域でのレガシー形成を見据えて、4つのテーマについて東商独自の活動を展開する。	
活動内容 (案)	テーマ1	東京のホスピタリティを世界に発信する。
	活動1. 「2020年版『IGS』(インバウンド受入対応力向上)事業」の展開 ◎ねらい: 2020年訪日外国人4,000万人に向けて、地域や各店舗での外国人観光客の受入れ対応力の向上に取り組む。 ◎事業例: 従業員向け講習会・経営指導員による訪問指導、インバウンド受入対応ツールの作成・配布、2020年版IGS認定の検討、スマホアプリ・Webサイトを活用した情報発信事業等	
	活動2. 心のバリアフリーの推進、声かけサポート運動の積極展開 ◎ねらい: 世界で初めて2回目のパラリンピック開催都市として、多様性を尊重する共生社会の実現に取り組む。 ◎事業例: 声かけサポーターの募集・育成、「声かけサポートの手引き」の作成・配布、大会期間中の声かけサポーターまちなか派遣、学生・子供が参加できるイベント実施等	
	テーマ2	地域の魅力・文化を世界に発信する。
	活動3. 訪日外国人向け「お散歩マップ(観光・土産・グルメ等)」を多言語対応で作成・発信 ◎ねらい: 2020年大会を機に、各地域の観光資源の磨き上げを行う。各地域の文化の発信・国際交流の促進にも繋げる。	
テーマ3	中小企業の底力を世界に発信する。	
活動4. 大会観戦訪日ビジネスマンを対象に中小企業視察ツアーを実施 ◎ねらい: 中小企業の魅力発信事業を東商の連携力を活かして実施。 ◎事業例: 地域で光る中小企業視察ツアーを大会期間中に実施(通訳ボランティアは会員大学と連携して外国人留学生から募集、ツアー参加者募集は海外商工会議所と連携して実施)等		
テーマ4	2020年大会に向けて、東京が抱える課題を解決する。	
活動5. 大会期間中の交通緩和、輸送円滑化への協力 活動6. 大会を契機とした働き方改革(ボランティア休暇、時差Biz等)推進 ◎ねらい: 2020年大会成功・レガシー形成に向けて各種政策課題に対応		
連携: 競技会場所所在地商工会議所・商工会、被災地の商工会議所(復興五輪)、都内商工会議所・商工会・関商連・日商・全国の商工会議所・海外の商工会議所・メディア等		

活動主体
オリパラ特別委員会
23支部
委員会
部会
女性会
青年部
会員企業
会員大学
会員企業の従業員等

大会への参画・協力

第2の柱	「地元経済団体としての2020年大会への参画・協力」	
	大会組織委員会、東京都、政府が実施主体となるものについて、東商がどのようなことに、どのような形で参加・協力したいのか検討し、各機関と連携(必要に応じて要望)して大会成功に寄与する。	
活動内容 (案)	(1) 既に取り組んでいるが、今後も継続・強化するもの	
	<ul style="list-style-type: none"> ○「東京2020応援プログラム」認証取得事業の積極的な実施 ・大会組織委員会の「東京2020応援プログラム」の認証を取得し、「東京2020応援マーク」を使用した大会の機運盛り上げやレガシー創出に資する事業を積極的に展開する。(大会組織委員会) ○「beyond2020プログラム」の活用促進 ・非スポンサー企業も使用可能な「beyond2020プログラム」の活用促進により、日本文化の魅力発信に寄与する。(政府(内閣官房)) ○「ビジネスチャンスナビ2020」の普及促進 ・中小企業のビジネスチャンス拡大に向けて「ビジネスチャンスナビ2020」の普及促進に取り組む。(東京都等) ○ポスター・のぼり等指定PR4品目を活用した大会気運の醸成 ・東商主催会員向け会議・イベント等で、ポスター・のぼり等指定PR4品目を活用し大会気運の醸成に努める。(大会組織委員会、東京都) ○会員企業への情報提供 ・会員企業に対して、大会関連情報等をタイムリーに提供する(各種説明会・セミナー等の実施)(大会組織委員会、東京都等) 	  
(2) 今後、各機関との連携や要望を通じた参画・協力を検討していくもの		
<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア募集(大会組織委員会、東京都) ○聖火リレー(ルート設定等)(大会組織委員会) ○大会関連施設の視察会(大会組織委員会、東京都等) ○事前キャンプ(大会組織委員会)、ホストタウン(政府(内閣官房))、テストイベント(大会組織委員会)関係 		
※上記以外は、各機関等からの協力要請等に基づき都度検討。		

※参考資料

①1964年東京大会での東商の主な対応

主な会議体	<p>■1963年「オリンピック対策特別委員会」(委員長:永野重雄副会頭(当時))設置 ※活動目的: オリンピック東京大会を機会に、日本の商工業の本来の姿を外客に伝え、国際信用を高めて、将来の外交・貿易・観光などに役立たせるため、商業道德の高揚、土産品の品質向上、民泊宿舎の協力、都市美化など、政府・都などと協力し、オリンピック受入れ対策の万全を期す。</p> <p>■1963年「オリンピック外客受入対策委員会」(委員長:永野重雄副会頭(当時))設置</p>
主な事業	<p>■外客受入対策</p> <p>○商業道德高揚運動の展開 ⇒「IGS(国際親善店)制度」の創設(※下記参照)</p> <p>○接遇の改善(ホテル、旅館などの接遇サービスの改善、料金の適正化、チップ問題、入国手続きの簡素化、土産品に関する免税、道路などにおける各種標識、案内板の設置等について対応を協議)</p> <p>○国民通訳制度の設置(オリンピックで来訪する外客を案内することを目的に、一定の基準をもとに国民通訳を募り、東商がバッジ、案内書を交付、東商事務局で登録・広報・斡旋事務を行うというもの)</p> <p>○民泊宿舎の募集協力</p> <p>○公衆衛生と美化対策の促進</p> <p>○東商ビル1階にインフォメーションセンターを特設 等</p> <p>■都内交通規制への協力</p> <p>■国旗掲揚推進運動の展開</p>
感謝状授与	<p>■1964年12月:警視庁から東商「交通運輸部会」が第18回オリンピック東京大会の交通警察に協力したとして感謝状を授与された。</p> <p>■1965年 3月:東京都から東商が第18回オリンピック東京大会開催に関連し、商業道德高揚に寄与したとして感謝状を授与された。</p>

※IGS(INTERNATIONAL GOOD-WILL SHOP—国際親善店)制度の創設について

○背景:1964年の東京大会は、戦後、急速な復活を遂げた日本が再び国際社会の中心に復帰するシンボリックな意味を持つ大会であった。そのような中で、東商は、オリンピックを機に訪日する外国人客が、日本の優れた産業と観光の実情を認識し、快適な滞日印象をもって帰国することが、その後の貿易振興・観光外客誘致の観点から極めて重要であるとの認識のもと、IGS制度を創設した。

○目的:オリンピック開催を機会に、外国人客の受入れ態勢が整っている店をIGSとして選定し、サービスの向上を図り、わが国商業の真価を発揮するとともに、国際的信用の高揚に努める。

○対象:小売業およびサービス業

○仕組:①地域団体(商店街等)または業種団体が、業種・業態に応じたIGS保証の内容を自主的に定め、東商オリンピック外客受入対策委員会の承認を受ける。

(※「価格が和欧文で表示」「ノーチップ制が確実に守られている」「規模は業界の平均規模以上」などを前提に、各業種ごとに基準を定めた。)

②IGSを希望する者は、所属する地域団体または業種団体を經由して東商に申し込む。

③東商オリンピック外客受入対策委員会で審査を行い、IGSに選定された申込者に対して、IGSの標識、選定証書を交付する。(IGSの有効期間は1年間。登録料10,000円)

④東商はIGSを国内外にPRする。

○実績:IGS選定店:1,402店、保証団体:187団体(1964年10月5日時点)



(IGS標識)

②2020年大会招致決定後の東商の活動概要

(1)2016年リオデジャネイロ大会視察

- ①オリンピック競技大会視察会
 - 期日:2016年8月18日～25日
 - 内容:閉会式参加、競技観戦、受入体制、機運盛り上げ状況の視察
- ②パラリンピック競技大会視察会
 - 期日:2016年9月15日～21日
 - 内容:上記に加え、バリアフリー・ユニバーサルデザイン状況を視察

(2)政策提言・要望活動

- ①世田谷支部:2020年大会の競技会場について(区内既存施設の活用)
 - 策定日:2015年2月
 - 提出先:東京都、大会組織委員会
- ②目黒支部:2020年大会の競技会場について(区内既存施設の活用)
 - 策定日:2015年3月
 - 提出先:東京都、大会組織委員会
- ③2020年大会に向けた東京都の取組に対する意見
 - 策定日:2015年12月
 - 提出先:東京都
- ④2020年大会の機運盛り上げに関する要望
 - 策定日:2016年3月
 - 提出先:大会組織委員会
- ⑤「東京2020大会に向けたボランティア戦略(案)」に対する意見
 - 策定日:2016年12月
 - 提出先:東京都、大会組織委員会

(3)バッジ・ポスターの配布

役員・議員・支部会長の皆様にバッジ・ポスター、支部役員・評議員の皆様にバッジを配布

(4)会員企業向け説明会

- ①本部主催JOCアスナビ説明会(2014年10月、2015年6月、合計175名)
- ②支部主催JOCアスナビ説明会(北支部・江東支部・城北ブロック、合計192名)
- ③大会開催基本計画説明会(2015年3月、360名)
- ④東京都、政府の取組説明会(2016年1月、180名)
- ⑤アクション&レガシープラン中間報告説明会(2016年2月、360名)
- ⑥アクション&レガシープラン説明会(2016年8月、180名)
- ⑦2020年大会に向けた政府の取組、beyond2020説明会(2017年1月、255名)
- ⑧「調達コード」、「ビジネスチャンスナビ2020」説明会(2017年3月、180名)

(5)各種会議体への参画、協力

- ①オリンピック・パラリンピック等経済界協議会
- ②大会組織委員会 顧問会議
- ③東京都ボランティア活動推進協議会(副会長:佐々木副会頭)

(6)議員総会・常議員会等における状況報告、新年賀詞交換会での大会PR等

(7)大会機運盛り上げ活動等(2016年10月まで)

- ①海から見る2020年施設予定地見学会(2014年10月、江東支部)
- ②みなと区民まつりでのパレード、ブース出展(2014年10月、港支部)
- ③リオデジャネイロ視察報告会(2016年10月、新宿支部)
- ④うへの桜フェスタ2017でのPR(2017年3月・4月、台東支部)等

(8)「東京2020応援プログラム」の認証取得事業(2016年10月～)

- 2016年10月～2017年6月:申請件数 20件
- 「声かけサポート運動」
 - 「企業における運動習慣定着化モデル事業」
 - 「外国人おもてなし語学講座(東京都との共催事業)」
 - 「2020年に向けたビジネスチャンス発掘交流会」
 - 「外国人接客マニュアル活用セミナー(世田谷支部)」
 - 「おもてなし規格認証活用セミナー(品川支部)」
 - 「新分野を切り拓くマーケティング戦略セミナー(大田支部)」
 - 「インバウンドビジネス最前線 インバウンドで稼ぐヒントセミナー(墨田支部)」等